

ふじのくに芸術祭 2025(第65回静岡県芸術祭)演劇コンクール審査結果

令和7年12月13日

- 1 種 目 音楽・舞台芸術部門 演劇コンクール
 2 会 場 県内各会場
 3 期 間 令和7年6月1日(日)から12月7日(日)まで
 4 参加団体数 10団体(招待参加1団体含む)
 5 入 賞

賞	劇 団 名	寸 評
	脚 本	
	代 表 者	
静岡県芸術祭賞	演劇ユニット FOX WORKS	コミカルな前半から衝撃的な後半への斬新なストーリー展開。人間の持つ怒りや残虐性を極限まで表現した俳優の高い演技力と独創的な演出が評価された。また想像力なき言葉が何をもたらすのか、現代社会への風刺、問い合わせも感じられた。
	人間風車	
	狐野利典	
後援者賞	劇団からつかぜ	病院の4人部屋で繰り広げられる人間模様。様々な社会的背景や個人の事情が“今”にも通じることとして描かれている。俳優の確かな演技と緻密でしながらユーモアと笑いのある演出で丁寧に創りあげた舞台が評価された。
	あした天気になあれ	
	高橋佑治	
奨励賞	アートひかり	地元・伊久美の“茶”にまつわる歴史を基にした作品。簡略化した衣装と舞台装置にチンドン屋の演奏。俳優のコミカルな演技等、親しみやすさと分かりやすさが評価された。
	Japan Tea 物語	
	仲田恭子	
準奨励賞	TOMO☆PROJECT	“忘れてはいけない戦争の記憶”をテーマにした作品を上演し、地域の大勢の人が観に来てくれた意義は大きい。方言、ひとり二役の演じ分けなど、俳優の好演が評価された。
	軍神の母	
	松尾朋虎	

- 6 審 査 員 松永智子、高橋佑治、ほか県民公募審査員4名
 7 審 査 総 評

今年は昨年よりも3団体多い10団体に参加していただきました。各賞を選考するにあたり、全体的にレベルが高く審査が難航しました。審査員一人ひとりが意見を述べ、かなり長い時間をかけて丁寧に話し合いました。その結果の決定ですが、芸術祭賞と後援者賞の2作品、奨励賞と準奨励賞の2作品は本当に僅差でした。

作品の内容、公演の形式、表現の方法もますます多様になっていく時代、優劣をつけるのは大変難しいと痛感しました。それにどう向き合い、選考するのかがこれから課題だとも感じた審査会でした。

審査員代表(松永智子)